



県議会の決算討論から県の問題をあぶりだしました。

12月20日県議会閉会となりました。補正予算のほとんどは災害復興予算でした。

また、昨年度（平成30年度）の決算審査が閉会中の10月・11月に飛び飛びに6日間行われました。私は一人会派なので、もちろん決算審査委員にはなれないので、全て傍聴しました。皆勤賞は私一人ですが、議員が勉強していないので、酷い質問ばかり。県議会って楽ですね。

自民党、公明党はもちろん立憲民主党、千葉民主党も賛成ですので、別に突っ込まなくてもいいのです。その中で共産党の加藤議員の質問は事前に資料を提出させて、問題を掘り起こしたもので、勉強になりました。

閉会日には決算に反対する討論をしました。討論は共産党と市民ネットワーク伊藤とし子のみ。反対理由で現在の千葉県の問題点を指摘しました。

： 児童相談所問題について。

1月に発生した野田市の小4虐待死問題は、11月検証報告書が出ました。子どもの立場に寄り添うという基本を守れず、救えたはずの命を失ったと公表され、教育委員会、児童相談所の責任が問われています。しかし、柏児童相談所が全国でも類を見ないほどの過密な状況にあり、職員が忙しさと疲弊していることも指摘されています。

一時保護所の過密状況は柏児相だけでなく、中央児相、市川児相も同様で長年放置されてきました。野田市の事件がきっかけで、見直しが少しずつ行われていますが、全く不十分です。また職員の計画的な補充をしてこなかったため、経験の浅い職員が多く、問題が山積しています。実際に新任研修では行政職研修のみで、福祉職向けの研修は皆無。入職早々に夜間勤務を命じられ、子どもたちの状況説明もなし、職員にしわ寄せがきて、早期退職やうつ病発症等が起きているとの声が、現場からは寄せられています。これら福祉政策の遅れが、5年前（2014年）の市原市乳児虐待死事件の反省が活かされないまま、野田市の事件につながったと考えざるをえません。

: 特別支援学校の問題について。

柏特別支援学校の過密状況は長年懸案になってきました。令和4年に流山高
校第2キャンパスができるので、改善されるようにも聞きました。しかし、1
教室を分けて2学級が使用している実態が、長年放置されています。11月に
現地視察で聞き取りをした結果、小学校16教室に24学級、中学校8教室に
13学級、高校9教室に17学級という実態です。学習障害の児童生徒は聴覚
鋭敏な子が多く、一教室に二学級が押し込められた状況は、劣悪としか言い
ようがありません。つくばエクスプレス沿線の柏市、流山市には今後小学校
4校、中学校1校の新設が予定されており、これ以上の放置は許されません。

: 教員未配置問題について。

教職員組合から出された要望には「県内での未配置数が平成30年度は前年度
比1.5倍~2倍と大きく上回り、100件を超える異常な事態が常態化している。
小中学校の未配置は全体の9割以上を占め、本年4月10日時点での未配置も
100件を超えている」とありました。毎年4月の入学式に担任が決まらない
学校があることから改善を求めてきましたが、事態はますます深刻です。教
育現場は混乱し、しわ寄せは子どもたちに来ています。抜本的な見直しは急
務です。

: ハッ場ダム建設事業について。

市民ネットワークでは長年、ハッ場ダム建設事業に対し、治水・利水の両面
で不要不急の事業であると指摘し、反対してきました。ここにきて、台風19
号のさいにハッ場ダムが完成したおかげで、利根川の氾濫が避けられたとい
う声があがっています。

ハッ場ダムの総貯水量は1億750万 m^3 です。台風19号ではハッ場ダムが一挙
に満水になったわけですから、1億トンもの雨を受け入れたこととなります。

しかし、ハッ場ダムは9月末に完成し、10月に徐々に試験湛水を始めたばかり
で、ほぼ空っぽ状態でした。通常では、ハッ場ダムの総貯水量1億750万
 m^3 の内、飲み水用が2,500万 m^3 、底に溜まる堆砂が1,750万 m^3 占めています。
洪水調節としての空きスペースは6,500万 m^3 しかありません。今回のように
1億トンもの雨が降れば、4,000万トンもの水が溢れ、ダムが決壊しないよう
に緊急放流しなければならないこととなります。一気に水を放流する緊急放
流は危険極まりなく、昨年西日本豪雨では、愛媛県の肱川で緊急放流した
結果、下流域で氾濫が起き、8人もの犠牲者が出ました。今回、ハッ場ダム
はたまたま空っぽだったので、緊急放流を免れました。運が良かったとしか

言えません。

また、今議会で「台風 19 号における八ッ場ダムの効果はどうか」という質問があり、それに対し「八ッ場ダムを含む利根川上流ダム群は、群馬県八斗島地先で、水位が約 1 メートル低下したと国は推定しています」との知事答弁がありました。1 メートルと聞けば、凄いと思いますが、質問は八ッ場ダムだけの効果を聞いているのです。それに対し、上流の 7 つのダムの合計効果を答弁するのは、ごまかし・はぐらかしと取られても仕方がありません。更に、この 1 メートルという数字も、国は「一つ一つのダムの効果は検証できない」としており、根拠のない大まかな数字でしかありません。専門家が国の流量データから計算したところによると、利根川の中流地点での八ッ場ダムの効果はわずか 17 センチであり、千葉県のある下流域ではほとんど効果はなかったとされています。

： 特別秘書の人件費について。

昨年の特別秘書の年間報酬は 1056 万 7065 円ですが、その業務内容を問い合わせたところ、①知事の政務に関すること、②知事の政策判断のための情報収集、分析等に関するところで、一般行政事務には関与しないとのこと。政務とは何でしょうか？ 公務とは文字通り、千葉県の行政のトップとしての仕事です。

一方、政務とは広辞苑では「政治上の事務」とあり、ネット検索では「一人の政治家としての仕事」と出てきます。専門家の中には、「政務担当秘書は、知事のポケットマネーや、自身の政治資金の中から雇うべき」という意見もあり、極めてあいまいな存在だと言えます。

また、千葉県の特別職職員の給与に関する条例では、知事秘書として、「月額 52 万円から 90 万円の範囲内で知事が定める額」とありますが、これは公務員としての通常の「知事秘書」の場合であり、森田知事の特別秘書とは全く立場が違ふと思われ。特別秘書にはタイムカードなどの勤怠管理も一切行われておりません。全国で特別秘書をおいているのは、千葉県以外に、東京、岩手、福島、埼玉、神奈川、長野、沖縄、の 7 県のみ。この際、特別秘書に年間 1000 万円以上もの報酬を公金で払うことを、抜本的に見直すべきと強く要望します。

： 神奈川県で発生した行政情報の流出に関連して。

12 月 6 日、神奈川県で、富士通リースからデータ消去の委託を受けた（株）ブロードリンクがきちんとデータを消去せず、行政情報を流出させた事件を受け、千葉県では過去 5 年間の情報システム機器の廃棄に係るデータ消去の状況について、調査をしたということです。

結果は、富士通リースから委託を受けたブロードリンクが消去処理したものは6件あり、全てについて、適正に消去したという作業報告書が上がっているとのことです。

しかし、そもそも千葉県と富士通リースの賃貸借契約ではデータ消去に至るまで、富士通リースの業務であり再委託は認めていません。(株)ブロードリンクに再委託することは契約違反です。それに言及していない県の調査は極めて不十分です。契約違反は民間では大変な問題であり、富士通リースの信用問題に関わると同時に、契約した千葉県のコンプライアンスも問われます。監査委員報告書でも、このことに関して調査した形跡はありません。この際、ほかにも契約違反のものがないか、全庁的に徹底的に調査するべきです。これをせずして、千葉県民に対して責任ある県政を行っているとは到底言えないことを強く指摘し、討論を終わります。

■■■千葉県議会サイト

<https://www.pref.chiba.lg.jp/gikai/>

9月議会の伊藤とし子の質問動画

https://www.gikaityukei.pref.chiba.lg.jp/g07_Video_View.asp?SrchID=702

◆◆◆◆◆いんふおめーしょん◆◆◆◆◆

◎三井よしふみとれいわ新選組の政策を語る会

日時 2020年1月13日(月・祝)

会場 スペース結(ゆい) 佐倉市王子台1-26-7

主催 さくら・市民ネットワーク